

野尋禾の
ついのべ
その八
(2010/04)



まえがき

” 野尋禾のついのべ その八 (2010/04)” です。
2010年4月に発表したついのべをまとめました。

この月の作品は、我ながら悪くない、と思います。
特に前半は。

某社のついのべ大賞の一次選考結果が発表されるまでは。

私は、十本応募して、一次選考で全滅しました。

つまり、それまでの作品は、わくわくしながら、楽しく書いていた作品だったということです。

そのあとは、気にしないように心がけながら、楽しく書いていた作品だったということです。

その違いもお楽しみいただければ、幸いです。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。

実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。

実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。

ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/08/01

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

嘘、そして、花の散るらん。(2010/04/01－2010/04/10)

#tnovel

五十年前にタイムスリップしたあなたは、巨匠黒澤明に面識を得ました。
尊敬する監督に対し、最高の賛辞を述べますが、監督は不機嫌になりました。
あなたはわけがわかりません。
あなたが言ったのは以下の言葉でした。
「マジカッケーッス！ コダワリまくりで、鳥肌たちまくりッス！」

2010/04/01

#tnovel

罪のない嘘は楽しいもの。
騙すほうも、騙されるほうも、四月馬鹿の一日、無邪気に楽しめます。
そんな楽しい一日も終わり。
日付が変わった、その時——おフランスはシャルル九世と秦の二代皇帝・胡亥が
復活。
嘘つきの馬鹿どもを狩り始めた！
お話は佳境ですが、お時間のようで……

2010/04/01

#tnovel

「今年也大ウケだったね、御社の四月馬鹿サイト」
「おそれいます」
「聞いたよ。四月馬鹿担当重役がいるんだって」
「はあ」
「おたくの定番商品、全部その人の企画だったんだってね」
「ええ」
「天才だ。でも、俺が社長なら、企画に戻すなあ……その新商品、一個も出てない」
「……」

2010/04/01

#tnovel

放火魔が逮捕された。
その男は、何件もの放火を繰り返した。

犯行にはパターンがあり、足取りを掴むのは容易だった。
男が火を放つのは、海に見える高台。
いつも、町じゅうから見える場所を選んだ。
現場付近の住民は、男の叫び声を聞いている。
「津波が来るぞお！ 海から離れろお！」

2010/04/01

#twnovel

錆びた自転車をこぐ音が近づいてきた。
巡査だ。
懐中電灯の光の輪が私をとらえる。
目を細める私は泥まみれ。
手にはスコップ。
足元には穴。
傍らには、満開の桜。
「何やってるの？ ああ、穴掘り。その樹は、桜ですね？ それなら問題ない。朝までに埋め戻してくださいね。ご苦労さん」

2010/04/01

#kaibun
#twnovel

「素手か？」
「×」
がしっ！
と抱いた。
「見つけたなあ……」
「あなた……」
「……ケツ見たい、だっ！」
「四月馬鹿です！」

2010/04/01

#twnovel

「魔がさした……」
現職国会議員の発言は、意外な波紋を巻き起こした。
「そういえば、私も」
「奇遇ですな、実はわしも」
「我輩も」
「あちきも」

——ほぼ全議員が同様の経験を持っていた。
事態を重く見た首相は、夫人の意見を求めた。
かくして、歴史の闇から、陰陽師がよみがえった。

2010/04/02

#tnovel

正義の味方は楽なんだ。
改造人間、超能力者——強くて親しみやすければいいの。
でも、悪は難しい。
実在の犯罪者みたいなのが出せないでしょ。
子供番組だから。
で、架空の怪物軍団をつくるわけ。
憎めないようなの。
それが正解……でも、ヒーローにやられてるの見てると、泣けてきてね。

2010/04/03

#tnovel

これがあなたの好きな場所。
港が見下ろせる公園。
偶然、私のパワースポットでもある。
私はここで癒される。
あなたはここで虚脱したように港を眺めている。
だんだん、私が精力を吸い取っているような気がしてきた。
気の毒になって話しかけた。
「ごめんなさい」
それがはじまりだった。

2010/04/03

#tnovel

大工の八五郎、与力の稲荷盛太から御公儀の秘密を聞かされた。
他言無用と言われたが、話したくてたまらない。
口の固い相手ならかまうまい、と御隠居のところへ。
「どうしたね？」
「他言無用で頼みますよ。幕府が宇宙人のシタイを隠してるってんですよ」
「編笠でも被ってんのかい？」

2010/04/04

軌道上の母船から、着陸船が降下した。
地球上の技術では完全に捕捉不能のカモフラージュは、高度な科学力を窺わせた。
秘密裡に国連事務総長との会見がもたれた。
その結果、地球は銀河連盟から永久除名処分となった。
会見後の事務総長のコメント。
「食ってみたら、うまかったんだよ」

2010/04/04

景気改善には、じゃぶじゃぶと融資する必要がある。
それはバブルと同じ。
割れやすい泡を膨らませなくてはいけない。
そこで、近所でも評判のしゃぼん玉名人、みっちゃん（五さい）が財務金融大臣付
諮問委員に指名された。
みっちゃんは、就任の条件として、おやつにプリンを要求した。

2010/04/04

天使の羽根が、一羽の鳥に変じて飛び去った。
地上に残された天使は、頭上の光輪を、遠くへ放り投げた。
野良犬が、それを追った。
続いて、身にまとった白いトーガを脱ぎ捨てた。
人間のいう、生まれたままの姿——天使は人間になったのだ。
そして、サイレンの音が公園に近づいてきた。

2010/04/05

「親分、てえへんだ！」
「なんでえ、ハチ、騒々しい。底辺はおめえの生活水準じゃねえか」
「それどこじゃねえんですよ！」
「それどこじゃねえなら、これそこか？」
「まぜっかえさねえでおくんなさい。シタイが出たんでさ」
「何？ シタイだと」
「へい。場所は——」
「眉の上だろう」

2010/04/05

#twnovel

「先生、ツイッターで選挙運動の時代が来ましたよ」
「きいた話では無料らしいな」
「政治とカネの問題を解決できるのです」
「ふむ。しかし、ホローしないと読めないだろう。支持につながるかね」
「大丈夫です。人気があがれば、フォローは増えます」
「それ、いくらかかるのかね？」

2010/04/05

#twnovel

教会を出ようとしたとき、稲妻に打たれた。
バンドを組め、という啓示かと思ったら、声が降ってきた。
「世界を救え！」
——え？
無理ッス！
俺、みんな死ねばいいと思ってるし、今も、主に、人類滅亡を願ったばかりなのに
。
「それでよい」
——え？
「世界を救うのじゃ！」
——え？

2010/04/05

#twnovel

ネットハンターの仕事は地味だ。
プログラムがクロールしてヒットしたサイトをチェックする。
怪しいサイト、怪しいカキコミは無数に存在する。
しかし、どれもこれも独創性に欠ける。
ユーモアもない。
欺瞞と欲望——それだけだ。
実に退屈だ。
どうやら、見本を示す必要があるようだな。

2010/04/05

#twnovel

桜吹雪に目を奪われ、僕は立ちつくす。

春の陽だまりの、そのなかで、夥しい花卉が宙に舞う。
花冷えや、春の嵐にさえ耐えた花が、あるかなしかの温かな微風に散ってゆく。
思い出した。
こんな風景を夢で見たことがある。
本当に夢みたいだ——こんな日に、あのひとの死を知るなんて……

2010/04/06

#twnovel

闇の中に篝火が並ぶ。
二つの足音と、震える小さな声。
「十分に議論を尽くしたのか？ 他に手はないのか？ もう、これしかないのか？」
「ご決断を……」
やがて、突き当たる祠。
「……お願いします」
捧げられる榊の枝。
首都中心の地下深く、怪獣が召喚される。
支持率回復のために……

2010/04/06

#twnovel

昨日、I 県 H 市の女性宅に、息子を名乗る男から電話があり、女性の相談にのった
うえ、” いいものを送るよ” といって切りました。
女性宅には、今日、評判のロールケーキが配達されました。
女性の息子は、” それは自分だ” と主張していますが、女性は否定しています。
次のニュース……

2010/04/08

#twnovel

そうですか。
もう、あなたのお耳にも……人の口に戸は立てられませんね。
仕方のないことです。
伯爵の御気性をご存知でしょう？
私ごとき執事ふぜいの忠告になど、お耳を貸すお方ではありません。
ああ、水音……ええ、今も戯れておいでなのです。
完全養殖成功記念とかで。
鰻どもと。

2010/04/09

#tnovel

よってらっしゃい、みてらっしゃい。
ちょいと出ました、この包丁。
なんのへんてつもない包丁とお思いか？
ところがどっこい、みてちょうだいよ、この切れ味。
切れるの切れないの切れる切れます刻みます。
どうだ！
ビッグバン以来、宇宙の進化とともに進化した宇宙包丁、値段は……

2010/04/10

#tnovel

コンビニで、あんぱんを買った。
ちゃんと桜の花弁がのっている。
正統的だ。
公園のベンチに腰かけて、袋をあけた。
ふわり、独特の香り。
はらり、目の前に桜の花弁……
あんぱんの上の塩漬けの花弁を見る。
これ、去年、あのとき、見あげた桜なんじゃないか？
いや、まさかね。
でも……

2010/04/10

#tnovel

クリック一回で十万円。
イマイチだよ。
もっと、グッ、とくるようなのって、ない？
何、メールするだけで、ひと月で億ションが買える？
いや、だから違うんだって。
木星のヘリウム採掘権とかさ、センス・オブ・ワンダーが欲しいの。
ああ、不思議な扇子だ？
……気になるね、それ。

2010/04/10

#twnovel

君の妹は、飲酒運転の暴走車に轢き逃げされた。
君は、最愛の妹を失った。
犯人は、酔いが覚めてから、自首。
その日だけ酔っ払い運転をしてしまった善人。
君の憎悪はそこで水いり。
もう、君にはできない。
だから、僕がやってあげるよ。
君のかわりに。
いいんだ。やってみたかったんだ。

2010/04/12

#twnovel

太平洋上空のジェット機内。
隣席の年配の白人男性がやたら話しかけてくる。
私は眠りたかったので、一言。
彼は黙りこんだ。
税関、タクシー……同じ一言で切り抜けた。
そうやって、有名な白い建物の楕円形の部屋まで来た——大統領執務室。
ここからが本番だ。
「あい、あむ、にんじゃ」

2010/04/12

#twnovel

「恋に恋するってゆーの、ありますよねー」
「若い頃にはな」
「あたし、今、そんなかんじでー」
「へえ、そう」
「先生、好きになってもいいですかー？」
「そうだな。失恋まで経験したければな」
「あははは」
「そんなでかい声で笑うな。みんな見てるだろ」
「できないくせに」

「え……」

2010/04/12

#twnovel

奇妙な一年だった。
毎月、新たな怪人が現れては消えた。
そして、師走——さる筋の依頼をうけた私は、ついに十二月の怪人を、銀座は三越の屋上に追い詰めた。
が、そこで怪人は消えてしまった。
残されたのは、甘い香りのするこんにゃく……そうか！
奴の正体は——おや、もう字数が。

2010/04/12

#twnovel

アニメみたいだった。
平和な日常が崩壊し、真の世界が浮上。
俺は戦士と呼ばれ、巨大人型兵器に搭乗。
人工知能——バディに従って、戦闘開始……あとはアニメみたいじゃなかった。
一瞬で敗北。
バディは俺を脱出させるために、機体とともに消滅。
俺は、逃げだした。
涙と鼻水まみれで。

2010/04/12

#twnovel

彼は、戦場から、ツイッターに投稿を続けていた。
軍事機密は明かせないが、日々の雑感や、短い物語を送信していた。
「ツイノベ？　なんだそりゃ？」
「日本の vss用ハッシュタグさ。クールだろ。こんどコンテストがあるんだ。大賞がとれたら、俺、死んでもいいよ」
彼は生き延びた。

2010/04/13

#twnovel

Q. 夕日や朝日がオレンジ色に見えるのはなぜ？

A. 空気の中の塵や水の粒が、オレンジ色以外の光を遮るからです。

子供向けの科学啓蒙絵本の一頁だ——大昔の。
この本を解読するのに費やした日々は、そのまま僕の青春だった。
そうか、昔は、朝夕だけがオレンジ色だったんだ……

2010/04/14

#twnovel

ついのべ大賞一次選考で 七十五作に絞られた。
しかし、通過者は、まだ知らない。
このあと、二次、三次と続けられる死の舞踏を。
最後の一人になるまで、戦いは続く。
踊りながらついのべ。
歌いながらついのべ。
走りながら。
泳ぎながら。
ビジネスライター執筆と同時に……等々。
健闘を祈る。

2010/04/14

#twnovel

長い道のりだった。
初めて見た瞬間に恋に落ちた。
それから、悶々と過ごした迷いの半年。
奇跡としかいいようのない席替えで隣になって、思い切って声をかけたあの日。
友達から初めて、一歩、一歩、進んできた。
今日こそ誘うぞ。
「あのさ、オレンジ来ねえ？」
「オレンジが、来るの？」

2010/04/14

#twnovel

「これが、手巻き寿司だと！ よくもこんなまがい物を……シャリはバラバラ、ネタはフリーズドライ！ わしの舌はごまかせんぞ！ しかも、職人が女！」
「言いたいことはそれだけか？ 一週間後、本物を食わせてやる」
「なんだと……」
アストロ・ソーイチは、エアロックへ向かった。

2010/04/15

#twnovel

ある脚本家がツイッターを題材に TV ドラマ脚本を書く。
が、局の意向で修正され、ツイッターらしさの薄い恋愛ドラマに。
視聴率低迷。
脚本家に的を外れの批判が集中する。
脚本家は、パスワード失念を理由に、ツイッターから撤退。
身近な友人にはこう漏らしていた。
「素直になれなくて」

2010/04/15

#twnovel

リア充恋愛ドラマはユーザーの冷笑を浴びた。
「熱いものが必要なんだ、と思いましたね」（プロデューサー談）
そして、ツイッター・ドラマ第二弾製作発表——
今回の主人公は、ジャーナリスト。
ツイッター報道の可能性を模索する彼をめぐる人間模様——
” tsuda になれなくて”

2010/04/15

#twnovel

「スケジュール調整が完了しました。会談に費やせる時間は十分です」
「けっこうです」
やがて、大統領がやってきた。
「では始めよう」
「はい。これは友達からきいた話です……」
十分後、彼は部屋を出た。
残された大統領は、補佐官に尋ねた。
「彼は、なぜ怖い話をしていたんだね？」

2010/04/15

#twnovel

「TL に何通りもの” 素直になれなくて” が展開され始めたようだな」
「ああ。しかし、放送開始後も、それらが収束しない場合はどうなる？」
「最悪の場合、この世界は消滅する！」
「な、なんだってえッ！」
「ビズ石板に予言されていたとうりだ。ツイートは世界を拡散させ、滅ぼす！」

2010/04/15

#tnovel

銅鑼の音が、窓を震わせている。
移動しながら連打しているようで、音はしだいに大きくなる。
意味不明だが、それだけが生き甲斐なのかもしれない。
だしぬけに音がやんだ。
耳が痛いほどの静寂。
ノックの音。
扉を開けると、ラマ僧の一団。
「お迎えにあがりました。ダライ・ラマ様……」

2010/04/16

#tnovel

「明日の朝、雪らしいよ」
「なんですって！」
「東京で四月に雪が降るのは四十一年ぶりだって」
「認めないわよ。ただでさえ寒いのに、このうえ雪なんて」
「君が認めようが認めまいが、降るときは降るさ——あ！」
「何？」
「ほら、もう……」
「雪じゃないわ！」
「じゃあ何？」
「雨
ヨ
！」

2010/04/16

#tnovel

見るからに新入社員というかんじの初々しい一団が、のろのろと歩いて行く。
傍らで羽目を外す一団は、大学の新入生か。
ああやって固まってるのも今だけだな。
来週には数人に別れて、二人か一人になる。
昔の俺みたいに。一人になって、気がついたら、地べたから世間様を見上げてる…
…

2010/04/17

#tnovel

もどかしい二人——

彼と彼女を結ぶ糸はたしかにあるのに、絡まり、もつれて、身動きできない。

若い二人は、素直になれない。

ツイッターも助けてくれない。

もうやりなおせない。

そんなとき、二人は、同じ言葉をツイート。

” みんな壊れてしまえ！ ”

二人の TL に、

” バルス！ ”

の嵐。

2010/04/19

#twnovel

街の姿も変わったよ——誰かに聞いてはいたのだけれど、ひさしぶりに訪れたその街は、もはや私の故郷ではなかった。

風向きが変わるほど高いビル、掘り返され、埋め戻されつつある河川敷。

その再開発に反対する住民の幟旗とアジ貼紙。

まるでイスラエルだ。

私の聖地は、もう消失せた。

2010/04/20

#twnovel

神殿のようなところで目覚めた。
「勇者よ」
と呼びかける美女。
「ながきにわたる光と闇の戦いに荒廃したこの国をお助けください」
幻影が視界に展開され、戦いの歴史が頭に流れ込む。
「光と闇？ 待てよ。どちらも灰色に見えるぜ」
「……召喚失敗」
「はあ？」
あれ……眠くなってきた……

2010/04/21

#twnovel

根気よく、辛抱よく、愛情を注ぐのが大事なんだ。
そりゃあときには腹もたつ。
でも、そんなときは幼い頃の可愛い顔でも思い出せよ。
嵐は、じきに過ぎ去るもんさ。
水をやるのを忘れなさんな。
そうすれば、いつか花も咲くし、実もつける。
きっと、俺みたいな優秀な泥棒になれるから。

2010/04/21

#twnovel

それから、何度も空を見上げた。
そこにあのひとはいないのに。
もういちど会いたい……そんなとき、そのサービスを知った。
全ツイート保存。
未だに記憶しているアカウントにアクセス。
彼のツイートが甦る。
たったそれだけ。
でも、それでいい。
ツイッターだけのおつきあいだったから。

2010/04/23

#tnovel

魔法で石になった勇者リョーツとその仲間たち。
深夜、ひそかに心ある若者が、魔法を解くために揺さぶった。
だが、同じく石化したマジックアイテムが、ポッキリ折れただけだった。
若者はアイテムを捨て、遁走した。
だが、敵は探索呪文で、彼を追い詰める——
コチラカツシカクカメ……

2010/04/23

#tnovel

夜中に目がさめた。
ひどく喉が渴いていた。
深酒のせいだ。
ふらふらと、外に出た。
無人の街を横切って、港に出た。
岸壁に立って、準備をした。
衣服を脱いで、海パンいっちょに水中眼鏡。
体操も忘れない。
鼻をつまんで足から飛び込んだ。
冷たいが問題ない。
さあ、海水を飲み干そう。

2010/04/25

#tnovel

旧家に嫁いだ。
伝統と格式の重みは感じるが、家族は普通の現代人だし、とてもいい人たちだ。
しかし、ただひとつ、義母に厳粛に伝授されたものがあった。
私は、やがて生まれてくる子供に、それを伝えなくてはいけない。
「昔々、海のむこうから、桃太郎という乱暴者がやってきて……」

2010/04/25

#tnovel

太陽系そっくりの星系があった。
地球そっくりの惑星もあった。
その惑星から電波が発信されていることは、よく知られていた。
超光速機関が完成すると、親善大使が派遣された。

だが、その惑星で待っていたのは文明人ではなかった。
電波で交信する、山のようなサイズのサボテンだった。

2010/04/25

#twnovel

ある家に泥棒が入った。
門内に侵入してから気づいたが、その家には犬小屋があり、大きな犬が眠っていた

。その犬が、泥棒に気づいたのか、目をあけた。
だが、吠えなかった。
不審に思った泥棒は、犬に尋ねた。
「なぜ、吠えないんだ？」
犬は答えた。
「そんな犬みたいな真似ができるか」

2010/04/26

#twnovel

成田空港で給油したボーイングが、太平洋上で交信を断つ。
大きな弧を描いて、石廊崎沖から東京湾上空に侵入。
巨大な橋をかすめて、都心へ。
そして、浜松町。
貿易センタービルに激突。
ビルは砂の城みたいに崩壊した。
世界の歯車が狂う……あったかもしれない、二〇〇一年九月十一日。

2010/04/27

#dajare
#twnovel

時に、西暦二〇一五年。
使徒、来襲。
第三新東京市、大深度地下。
ネルフ本部。
主モニターの中を進攻してくる巨大な人影。
切り札は待機中。
操縦者の到着を待つばかり……なのだが、遅い。
ついに本部に直接攻撃。
碇ゲンドウの最期の言葉。
「おらはシンジ待っただ……」

2010/04/28

#twnovel

そして、長い行列の果てに、俺の番が来た。
祖国に一命を捧げるのだ。
後悔の念はない。
マニフェストに感動し、投票した。
並んでいる全員が、熱い思いを共有している。
時代は変わった——コンクリートから人へ。
この体が、魂が、暮らしを支える礎となる——コンクリートに代わって。

2010/04/28

#twnovel

なんのためにとか、誰のためにとか、どうでもよかった。
ただ、会社を潰さないために——そう思って、自分を支えてきた。
しかし、さすがに疲れた。
「一日だけ休ませてくれ」
と言ったら部下に笑われた。
「部長、昭和の日じゃないすか」
昭和の日？
四月二十九日は、天皇誕生日だろう？

2010/04/29

#twnovel

男が山から降りてきた。
毎年、落選してきたツイノベ大賞。
入選作は輝いている。
だが、自分の作品と何が違うのか。
わからない。
片眉を剃り落とし、山に入った。
そして一年。
131 文字の真髄を極めた実感がある。
彼はまだ知らない——ツイッターが、70 文字に仕様変更されたことを。

2010/04/30